

エヌビディア(NVDA)

【セクター】 半導体

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

米国の半導体メーカーです。コンピュータでの画像表示をスムーズにするために用いられる半導体であるGPU（グラフィック・プロセッシング・ユニット）が主力で売上の84%を占め、CPU（セントラル・プロセッシング・ユニット）が16%を占めます（18年1月期）。エンドユーザー別の売上は、ゲームが57%、データセンターが20%、プロ向け画像処理PCが10%、自動車が6%、OEM・IPが8%を占めます（18年1月期）。ニンテンドースイッチ向けのCPUは、OEM・IPに含まれています。

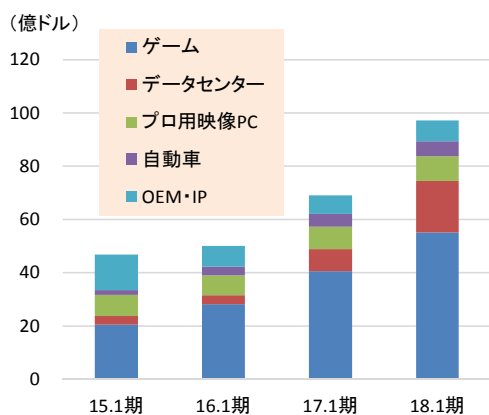
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年1月期	5,010	773	1.36	0.40	8.3	17.4	60.6
17年1月期	6,910	1,686	2.60	0.49	9.8	33.0	58.6
18年1月期	9,714	2,927	4.63	0.57	12.3	44.2	66.5

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

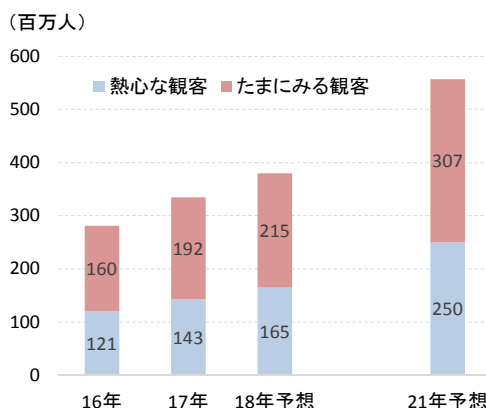
【主要指標】

図表1 エンドユーザー別売上



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 eスポーツのグローバル観客数



(出所) ニューズ-資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

コンピュータで画像処理を速くするための受動的な「部品」であるグラフィックボード（GPUが主要部品）を主力とする会社ですが、このGPUが人工知能（AI）の計算に適していることが分かり、GPUコンピューティングの会社が変わろうとしていることが注目されています。データセンターでのAI計算向けに需要が拡大しているほか、将来的には自動運転コンピュータとしての需要拡大が期待されています。GPUを画像表示でなく数値計算に使用するためにはソフトウェア群が必要で、同社はこれを「CUDA」として2006年から普及に努めたことがここに来て花開いています。GPUの技術を持つ他社も簡単に追いつけないリードを獲得、同市場をほぼ独占しています。

【見通し・注目点】

グラフィックボードの新製品が注目されています。同製品は、物体への光の当たり方をリアルタイムに計算してPCゲームのグラフィックに反映することができるリアルタイムレイトレーシング（同社は「RTX」と呼称）を実現しています。ゲームの競技者が視点を変える度に光の当たり方を計算するのは膨大な計算量になりますが、この機能に特化した回路をグラフィックボードに載せることで実現しています。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 18/8/28)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。